

## ○管理区評価調書

## 1 森林の整備に関する事項

## (1) 森林の整備

## ア 森林資源の状況

区分		単位	計画期首	計画期末	増減	
人工林	育成単層林	面積	ha	6,410	6,317	-94
		蓄積	千m3	1,356	1,447	91
	育成複層林	面積	ha	1,011	1,079	68
		蓄積	千m3	157	196	39
	計	面積	ha	7,422	7,396	-26
		蓄積	千m3	1,514	1,643	129
天然林	天然生林	面積	ha	25,671	25,692	22
		蓄積	千m3	4,154	4,390	236
その他	未立木地等	面積	ha	251	251	0
		蓄積	千m3	0	0	0
計	面積	ha	33,344	33,339	-4	
	蓄積	千m3	5,667	6,033	365	

※計画期首（平成28年度末）、計画期末（令和2年度末）の森林資源状況

## イ 計画量の実行状況

区分		単位	計画 (A)	実績 (B)	実行率 (B)/(A) %	
伐採	人工林	主伐	千m3	46.5	52.3	112
		間伐	千m3	45.8	53.4	117
		計	千m3	92.3	105.7	115
	天然林	主伐	千m3	0.0	0.0	
		間伐	千m3	0.8	3.8	475
		計	千m3	0.8	3.8	475
	計	主伐	千m3	46.5	52.3	112
		間伐	千m3	46.6	57.2	123
		計	千m3	93.1	109.5	118
造林	人工林	人工造林	ha	338.0	273.0	81
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	338.0	273.0	81
	天然林	人工造林	ha	20.0	0.0	0
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	20.0	0.0	0
	計	人工造林	ha	358.0	273.0	76
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	358.0	273.0	76
路網 (開設)	林業専用道	km	2.4	6.8	283	
	森林作業道	km	0.0	0.0		
	計	km	2.4	6.8	283	

※ 計画期間における総事業量に対する総実行量の割合

計画 (A) : 計画期間 (平成29年度～令和3年度) の計画量、  
実績 (B) : 計画期間 (平成29年度～令和3年度) までの実績 (見込) 量

ウ 評価指標

(ア) 伐採材積の実行率 (千m<sup>3</sup>、%)

計画	実績	実行率
93.1	109.5	118

※計画期間（平成29年度～令和3年度）における伐採計画量、伐採実績（見込）及び実行率

(イ) 間伐面積の実行率 (ha、%)

計画	実績	実行率
732	769	105

※計画期間（平成29年度～令和3年度）における間伐面積の計画量、伐採実績（見込）及び実行率

(ウ) 路網密度 (m/ha)

計画期首	計画期末	増減
5.5	5.3	-0.2

※計画期首（平成28年度末）、計画期末（令和2年度末）の路網密度

(エ) 人天別森林蓄積 (m<sup>3</sup>/ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
人工林	204	222	18
天然林	162	171	9
平均	170	181	11

※計画期首（平成28年度末）、計画期末（令和2年度末）における人工林、天然林別のha当たり蓄積

(オ) 育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積 (ha)

区分	計画期首	計画期末	増減
育成単層林	2,060	2,116	56
育成複層林	1,011	1,079	68
計	3,071	3,195	124

※計画期首（平成28年度末）、計画期末（令和2年度末）における5ha以下の単層林施業と複層林施業の実施面積

エ 課題（評価指標の分析等）

・平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、道有林胆振管理区内の多くの林地が崩落した森林被害が発生したため、計画変更を行い対応した。その結果、造林に係る計画量は減となったが、伐採に係る計画量については被害木整理を行い利用できる被害木の有効活用（集積販売等）を図ったことによる増となった。

オ 今後の対応方向

・植栽が可能な地震跡地については、植栽による森林再生を図る。また、被害木については被害木整理を行いながら被害木の有効活用を図っていく。

(2) 森林の保全

ア 取組内容

冬期間の林道除雪によるエゾシカ捕獲環境の整備及び原生的な森林を保護林に設定。

イ 評価指標

(ア) エゾシカ森林被害実面積 (ha)

計画期首	計画期末	増減
53.29	0.53	-52.76

※計画期首（平成29年度）、計画期末（令和2年度）におけるエゾシカによる食害等の被害実面積

ウ 課題（評価指標の分析等）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災以降、被害状況の把握を実施していない。</li> </ul>
--

エ 今後の対応方向

<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害状況の把握（簡易調査も含め）に努める。</li> </ul>
--

(3) 林産物の供給

ア 取組内容

「協定販売」により地域の木材需要を踏まえて原木を供給
----------------------------

イ 評価指標

(ア) 協定販売件数（延べ） (件)

前計画	現計画	増減
11	5	-6

※前計画（平成25年度～平成28年度）、現計画（平成29年度～令和3年度（見込））期間における協定販売の契約件数

ウ 課題（評価指標の分析等）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災により路網が寸断されたため区域設定が困難となった。</li> </ul>
--

エ 今後の対応方向

<ul style="list-style-type: none"> <li>・路網の復旧状況を見ながら区域設定を行い対応して行く。</li> </ul>
---

(4) 地域と連携した森林施業等

ア 取組内容

一般民有林の森林所有者と協定等を締結し、路網の共同使用を進め、一般民有林の整備を推進。
---

イ 評価指標

(ア) 共同施業等の件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	3	3

※前計画（平成25年度～平成28年度）、現計画（平成29年度～令和3年度（見込））期間における共同施業、共同出荷、路網の共同使用の実施件数

ウ 課題（評価指標の分析等）

・地域ニーズを捉えることが必要。

エ 今後の対応方向

・今年度、路網等の共同利用1件の覚書を締結。震災以降、民有林の森林整備を実施するため、道有林の路網の共同利用を望む声アリ。今後は、関係者と協議を進め対応して行く。

(5) 森林施業の低コスト化

ア 取組内容

低コストで効率的な森林施業や林内作業の軽労化を進めるため、低密度植栽やコンテナ苗による植栽、列状間伐を推進

イ 評価指標

(ア) 機械作業を前提とした人工林の造成面積 (ha)

前計画	現計画	増減
43	50	7

※前計画（平成25年度～平成28年度）、現計画（平成29年度～令和3年度（見込））期間における機械作業を前提とした人工林の造成面積

ウ 課題（評価指標の分析等）

・機械作業が実施できる箇所については、積極的に機械作業を実施。

エ 今後の対応方向

・引き続き森林施業の低コスト化、省力化に努める。

(6) 林業事業体等の育成

ア 取組内容

・中核事業体に1社加入（構成員の増）。

イ 評価指標

(ア) 長期安定供給販売量の割合 (量：m3、割合：%)

区分	計画期首	計画期末	増減
総販売量	26,785	23,600	-3,185
長期安定供給販売量	0	0	0
割合	0	0	

※計画期首（平成29年度）、計画期末（令和3年度（見込））期間における立木販売総量に対する長期安定供給販売量の割合

ウ 課題（評価指標の分析等）

・震災以降、路網が寸断され区域設定が困難となったため、現在まで長期安定供給販売は実施していない。

エ 今後の対応方向

・路網の復旧状況を見ながら区域設定を行い対応して行く（長期安定供給販売については、現在検討中）。

## 2 森林の管理に関する事項

### (1) 取組内容

公有財産である道有林を適正に管理し、入林者の安全を確保するため林野火災の警防、森林の被害調査を実施。

### (2) 評価指標

#### ア 林野火災の発生件数 (件)

前計画	現計画	増減
0	0	0

※前計画（平成25年度～平成28年度）、現計画（平成29年度～令和2年度）期間における林野火災の発生件数

### (3) 課題（評価指標の分析等）

- ・引き続き林野火災の発生防止に努める。

### (4) 今後の対応方向

- ・引き続き林野火災の発生防止に努める。

## 3 森林の活用に関する事項

### (1) 取組内容

森林体験学習や森林ボランティア活動、林業現場見学等、木育活動の場として道有林のフィールドを積極的に提供。

### (2) 評価指標

#### ア 入林者数 (人)

区分	前計画	現計画	増減
レクリエーション、調査・測量等	3,801	2,716	-1,085
狩猟	244	128	-116

※前計画（平成25年度～平成28年度）、現計画（平成29年度～令和2年度）期間における道有林への入林者数

#### イ 木育活動参加人数 (人)

前計画	現計画	増減
628	306	-322

※前計画（平成25年度～平成28年度）、現計画（平成29年度～令和2年度）期間における道有林をフィールドとした木育活動等の参加人数

### (3) 課題（評価指標の分析等）

- ・震災並びに感染症の影響により入込み数が減少したと考えられる。

### (4) 今後の対応方向

- ・震災復旧が進み、感染症による影響が収束すれば入込み数も増加してくると予想。

#### 4 道民との合意形成

##### (1) 道民意見の把握

###### ア 目的

・道有林基本計画の推進にあたり、地域住民や地域の林業関係団体のほか、他産業との関係者とも連携を図り、道民全体の理解を得ながら進める必要があるため、道民意見・ニーズを把握するアンケート調査を実施。

###### イ 調査方法

・アンケート調査を実施

###### ウ 評価指数

(ア) 道有林の管理運営に対する満足度 (%)

区分	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	計
回答数	6	33	19	0	0	58
割合	10%	57%	33%	0	0	100

※地域住民へのアンケート調査結果より

###### エ 課題（評価指標の分析等）

・6割以上の地域住民の方々から高評価をいただきました。今後は適宜、情報発信に努め満足度を高める取組等を行って行きます。また、道有林の見学会等の開催を望む声が多数あったことから開催を検討する。

##### (2) 管理区評価現地説明会の開催

開催年月日	主な内容	参加人数	主な参加者
中止の判断	感染症の影響により開催を中止。	-	

#### 5 総括（森林の整備・管理に関する課題と今後の方向性）

「道有林胆振管理区現地説明会」については、感染症の影響により中止の判断を行った。今後は開催が検討されている木育イベント（月一森づくり・サポーターの会・イオンでのイベント等）を通じてのアンケート調査の実施並びに道有林についての説明を行い少しでも地域の方々の意見などを伺い、感染症が収束に向かった場合、「地域住民と創る道有林」を開催する。（現地は、147林班周辺を検討）